

◇立野小学校の教育目標◇

○あたたかい心をもつ ○すすんで学ぶ ○つよい体をつくる

◇学校経営方針◇

- (1) 豊かな心の育成
 - ・人とのあたたかい関わり方を身に付けさせる
 - ・発達段階に応じた人権についての指導を推進する
- (2) 学ぶ力の育成
 - ・学習規律・学び方等の内容確認・指導実践を練り上げる。
 - ・週ごとの指導計画の改善・活用を図る。
 - ・授業改善、指導法改善、ICT機器の活用を行う。
- (3) 体力の向上や健康・安全教育の充実
 - ・体育学習の質的向上を図る
 - ・体育的活動の充実を図る
 - ・健康・安全に関する教育を進める

▼保護者の願い

- ・分かる授業、楽しい授業を行うことで学力を向上させてほしい。
- ・心豊かな子供を育ててほしい。

▼教職員の願い

- ・学ぶ楽しさや喜びを味わわせたい。
- ・心豊かでたくましい子供を育てたい。

▼地域の状況

- ・自然環境に恵まれ、保護者や地域住民は学校教育に対する関心が高く、学校行事に対してとても協力的である。

◇各教科の指導の重点◇

- 【国語】** 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う指導を行う。
- 【社会】** 社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う指導を行う。
- 【算数】** 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考えたり、統合的・発展的に考えたりしたことを表現する力を養う指導を行う。
- 【理科】** 自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるとともに、問題解決の力を養う指導を工夫する。
- 【生活】** 身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、生活上必要な習慣や技能を身に付け、自分自身や自分の生活について考え表現する力を養う指導を行う。
- 【音楽】** 音楽的な見方・考え方を働かせ、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付け、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育む指導を行う。
- 【図画工作】** 造形的な見方・考え方を働かせ、創造的に発想や構想し、感性を育み豊かな情操を培う指導を行う。
- 【家庭】** 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、日常生活に必要な基礎的な理解と技能を身に付け、日常生活の中からの課題を解決する力を養う指導を行う。
- 【体育】** 体育や保健の見方・考え方を働かせ、運動や健康について見つけた自己の課題の解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う指導を行う。

◇道徳科の指導の重点◇

- ・学習環境や指導方法を充実することにより、児童の道徳性を養い、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。
- ・全教育活動を通して、互いに人格・人権を尊重し合い、思いやりの心と規範意識のある児童を育成する。
- ・身近な社会生活の中から、人権にかかわる問題を正しく理解させ、人権を尊重する態度を養う。

◇立野小学校における確かな学力◇

主体的に学び、考えたことや判断したことを表現する力

学習指導要領が示す確かな学力

- ・基礎的な知識・技能
- ・思考力・判断力・表現力等の能力
- ・主体的に学習に取り組む態度

各教科・領域で身に付けさせたい 資質・能力

基本的な生活習慣・学習習慣の定着

◇総合的な学習の時間の指導の重点◇

- ・探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する。
- ・他教科及び総合的な学習の時間で身に付けた資質・能力を相互に関連付け、それらを総合的に働かせられるような学習活動を工夫する。

◇外国語科・外国語活動の指導の重点◇

- ・外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験させるとともに、外国人ALTを活用し、外国特有の発音やリズムなどに慣れ親しませる。

◇進路指導の重点◇

- ・児童一人一人の能力や適正を正しく把握し、将来に希望や生き甲斐がもてるよう支援する。
- ・学校生活の中で、自己のよさや役割について意識化させる生き方の指導を積極的に取り入れ

◇生活指導の重点◇

- ・挨拶を通して一人一人が笑顔で学校生活を送ることができるようにする。
- ・基本的な生活習慣の定着を図る。
- ・教育相談活動の充実を図り、配慮を要する児童に対し、迅速で組織的な対応をしていく。

本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	指導内容・指導法の工夫	校内における研究・研修の工夫	評価方法の工夫	家庭や地域との連携の工夫	小中一貫教育の視点
◇各教科の学習の中で、自分の考えを交流することによって、さらに広げ深める力を継続的に育成する。	◇年間指導計画・評価規準を見直し、授業における指導と評価の一体化を図る。	◇研究主題「どの子ども体も動かす楽しさを味わい、運動する意欲を高める授業づくり」を、体育科のボール運動系、保健領域の実践にて行う。	◇各教科では、観点毎に適切な評価をする。	◇学校公開日を年に9回設定し、保護者や地域住民に公開する。	◇石神井西中学校での部活動見学、授業体験、職場体験の受け入れなど児童と生徒との交流を計画的に行う。
◇習熟に応じた指導や補充的な学習・発展的な学習を取り入れ、個に応じた指導の一層の充実を図る。	◇2年～6年の、習熟度別算数指導を実施し、個に応じた指導をする。	◇研究授業や事前授業の充実を図る。	◇児童の学習意欲の向上を図るために、自己評価や相互評価を積極的に取り入れる。	◇道徳授業地区公開講座を2月に実施する。	◇課題改善カリキュラムの作成・検討を行う。
	◇各教科でユニバーサルデザインの考え方を大切にした指導を行う。	◇主幹教諭・主任教諭主催の校内研修を実施し、教員相互の指導力の育成を図る。		◇地域、PTAと共催でもちつき大会を実施し、相互の交流を図る。	◇校区别協議会において小学校と中学校の情報交換等の充実を図る。